

たかつき市民活動ネットワーク NEWS

2004.3.13 第4号

発行：たかつき市民活動ネットワーク

TEL：090-7348-4525

FAX：072-688-7328

「NPO発信/こんな高槻にしたい！」を実施して

市民活動促進フォーラム
実行委員長 遠矢家永子

今年度研修部会の担当理事をお引き受けし、ネットワークで何をすべきか常に考えてきました。7月から8月にかけて講師に川畑さんをお招きし実施した研修会の終了後、駅前で「こんなことできたらきっとおもしろいよね」と川畑さんと立ち話に花を咲かせていたその内容が、今回のフォーラムへと発展していきました。運良く市の方でも今年のフォーラムについて考え始めていた矢先で、結果研修部会という枠にとどまらず、ネットワーク役員会へ呼びかけ行政も交えた実行委員会を立ち上げフォーラムを開催する運びとなりました。

NPOも行政も「協働」を模索するものの、「協働」という言葉が具体的イメージにつながらない中、早瀬さんの基調講演や各団体のプレゼンテーション、それに対する早瀬さんからの質問・講評を聞くうちに、「協働」のイメージが少し鮮明になったのではないかと実感しています。

今回のフォーラム開催に向けて、私がこだわった事は4点。1) 共に協力し合い行政との顔の見える関係を広げより対等な関係を構築する。2) たくさんの方のフォーラムへの参加・参画を促す。3) スタッフ間の共通理解を作る。4) 誰にでもわかりやすく希望の持てる楽しいフォーラムを開催する。それらの事は、ふりかえりも含め計10回に及び実行委員会に関わってきた実行委員のみなさんや基調講演を引き受けて下さった早瀬さんの努力もあって、おおむね実現できたのではないかと考えています。

当日は目標参加人数 150 名を上回る 183 名(名簿確認人数)の参加があり、熱気で室温があ



が っ て
しまい、椅子が足らなくなるといったアクシデントに阻まれながらも時間配分も滞りなく大盛況のうち無事終了する事ができました。

今回のこの取り組みをそのまま終わらせてしまうことのないよう、2月28日に開催した最終の実行委員会では次のようなとりまとめを行いました。

- ・今回資料として配付した市民・行政協働事業ヒント集は参加者のアンケート結果をつけて、庁内メールで職員に配信し市民力を庁内にアピールする。
- ・たかつき市民活動ネットワーク理事会へ実行委員会から次の提案をする。NPOと行政との協働事業を具体化するために、たかつき市民活動ネットワークあるいはサポートセンター管理運営委員会と行政とで(仮)「協働事業研究会」を発足させる。今回ヒント集に盛り込まれた10事例を土台に、実現可能な事業をセレクトし、協働の対象となる部局との話し合いも交え、今回の参画団体に限らずNPOと行政との協働事業の実現を模索する。

ようやく形が見え始めたばかりのNPOと行政との「協働」です。少しずつ想いを形に変えていけるように、これからも参加・参画をよろしく願います。

基調講演(要旨) 講師 早瀬昇氏

『協働』から生まれる可能性—市民活動と行政の『協働』を考える

従来は、公共的な課題(例えば、環境、少子化、高齢化など)に取り組むのはほとんど行政であった。市民の関わり方は納税や議員の選出などで、地域社会のことを考え、問題を解決するのは行政の役割であり、行政が市民の代理をしていた。

しかし、阪神大震災以降市民活動が活発になり、その役割が市民や市民活動団体に移りつつある。市民が自ら行う場面を増やすと、「そうかこの街にはこんな問題があるのか」と現実起こっている問題を実感して活動することが出来る。社会的な問題を市民が自らの意思で変える、これが自治の原点。市民が主権者としての働きをしやすい社会をつくるのが協働の目的。

そして行政は市民や市民活動団体に対して活動の支援や、行政への参画の推進を行う。行政と市民・市民活動団体の役割が対等・相互理解の関係へと変化してきている。この変化が地域社会に

5団体のプレゼンテーション

フォーラム会場で、5団体のNPO法人から、プレゼンテーションが行われ、日頃の協働事業活動の状況や成果など、市民活動への思いが熱く語られました。会場を埋めた大勢の参加者も、それぞれの発表に感銘を受けたようで、大きな拍手が、発表者全員に送られました。

(1)「情緒障害児支援事業～いのちはきっと輝く!!」
るんびに 松尾正隆さん
情緒障害児を生み出さない社会づくり、健全な青少年を育成したいという熱意を、様々な観点から語って下さいました。

(2)「子ども達に高質の舞台を！」学校鑑賞会の見直しとコーディネート提案」

三島子ども文化ステーション
山本外志子さん・堀越小百合さん



おける主役を本来の主権者である市民へと動かし、行政はそれらを仲介する役割へと変わっていく。

具体的な協働とは。先ず、市民活動をより活発にすること。そのために補助などの施策がある。「補助」のポイントは、主体が市民自身であること。市民がしたいことを補って助けるのが、補助。

もう一つは、市民活動団体がしっかりしているから委託する。「委託」の主体は行政。元来行政がすべきことを託す。それは市民団体のほうがより専門的であったり、より効率的であったりするから。

協働の効果としては、市民の自治力の向上、市民活動団体の機能性・効率性・専門性などの活用、市民参加を通じて「コミュニティ」の再生などが考えられる。(文責:事務局)

寸劇をまじえて、子どもたちへの楽しい情操教育のあり方を、私たちに話しかけて下さいました。

(3)「初期から後期までの連続ケアが可能な小規模・多機能型ケアステーション」

高槻の高齢社会をよくする会 中越優さん
高齢者や障害を持った人たちが、安心して暮らせる社会づくりを、Mさんという方の晩年のお付き合いを紹介しながら語られました。

(4)「みんなでデイサービス」

高槻ライフケア協会 藤野好美さん
さまざまなハンディを持つ人たちが、安心して暮らせる地域社会づくりを、サービスを受ける側、提供する側、社会の幅広い観点から語られました。

(5)「環境総合学習～ミミズによる環境総合学習」
水環境フォーラム 川下好則さん
ミミズを通しての自然界の循環型社会を話されましたが、川下さんの可愛いミミズへの思いが印象的でした。

フォーラム参加者の声

64 名の方がアンケートに答えていただきました。ご協力有難うございました。

全体として、有意義であったとの評価をいただいています。また、このフォーラムを出発点に協働の具体化に向けた今後の取り組みを望む声がたくさん寄せられています。その期待の大きさに心が引き締まる思いがします。

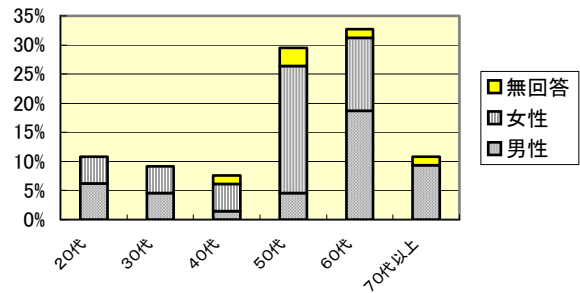
紙面の都合ですべてを掲載できませんが、主なご意見をご紹介します。

●**基調講演「協働から生まれる可能性」について**
「大変よかった」が約7割、「よかった」を入れると9割近くを占め、大変好評でした。

「協働についての理念がよくわかり、イメージがわいた」、「行政では出来ることが限られているので市民の力の大切さがわかった」、「協働といえども行政の下請けではないかと思っていたが本来の型について学習できた」など、市民、行政職員の双方から高い評価をいただきました。

●**プレゼンテーションを企画したことについて**
「大変よかった」が約6割、「よかった」を入れると9割近くの方が、有意義な企画と感じていただきました。「すぐ実現可能な提案もあった」、「行政の現行施策を知ったうえでの提案は前向きでよかった」、「これらの提案に対する行政の反応が

回答者の年齢層



楽しみ」など、今回の企画に対して大変好意的に受け止めていただきました。

また、行政職員からも、「市民の中にこのような素晴らしい活動があることに感動しました。きっと高槻はいい街になると確信しました」と、うれしいメッセージをいただいています。

●**その他のご意見**

「このような NPO 活動を如何に行政が市の事業としていけるのか期待したいと思います」、「今後も NPO 同士のつながりが構築される仕掛けを開催してください」、「今後は実現性を考えながら一つ一つじっくりと聞けるといいと思います。行政の方の出席、出演もあればいいと思います」など、協働の具体化に向けた今後の取り組みを望む声がたくさん寄せられています。また、「プレゼンに評価をつけるべきだった。その方がいい刺激になるのでは」など、今後の企画の参考になるご意見もありました。

「交流サロン」報告と今後の計画

交流部会担当理事 山下征紀

会報 3 号以降、以下のサロンが開催されました。

第 2 回、11 月 29 日。“サポートセンター 6 ヶ月を経過して想うこと”（浜田伝さん）。第 3 回、1 月 31 日。“私のまちづくりの視点”（山本志津江さん）。第 4 回、2 月 21 日。“中間支援組織とネットワーク”（平田有喜宏さん）。また、12 月 13 日にはネットワークとしては初めての忘年会も行われました。21 名の参加を得、時間の経過も忘れ相互の会話も弾み盛会でした。

サロンは毎回 10 名前後で、ざくばらんな雰囲気大切にしながら進め、参加者が全員“しゃべる”ことをモットーにしています。ゲストスピ

ーカーから 30 分程話題を提供していただき、参加者が感想や質問、そして関連情報を語り合います。それぞれの発言には、その人なりのユニークな個性があり、楽しい集いになっています。

「今後の計画」

●第 5 回：3 月 20 日（土）ゲスト山下征紀 “情報・データからの市民活動啓発は可能か”

●第 6 回：4 月 17 日（土）ゲスト 吉田市民協働部長、平野理事・市民参画室長 “こんな高槻市にしたい（協働事業）を振り返って”

詳しくはご案内（別紙）を見てください。参加者が固定しつつあります。ご都合を付けて出席いただき、新しい刺激と話題をご提供ください。

03年11月～04年2月までの主な活動

11月8日： 会報第3号発行
11月18日： 第6回理事会
11月25日： NPO法人大集合第2弾
11月29日： 第2回交流サロン
12月13日： 懇親会
1月13日： 第7回理事会
1月31日： 第3回交流サロン
2月14日： 市民公益活動促進フォーラム
2月21日： 第4回交流サロン
2月23日： 第8回理事会
2月28日： 市民公益活動促進フォーラム
実行委員会（第10回）
(2003年9月～2004年2月に合計10回の実行委員会を開催)

サポートセンターからのお知らせ

センター利用状況について

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
利用者数	9	36	96	255	326	248	176	169	164	154	136	153

* センター登録団体数 45団体

活動状況について

- 1、センターのホームページ、4月立ち上げを目指してがんばっています。
内容は：センターからのお知らせ、イベント情報、登録団体の情報、市民活動団体の紹介、高槻市との相互リンクなどなどです。
- 2、コミュニティ推進課と協力して、「街づくり講座」を開講しました。(2/19)
内容は：「市民活動とは」「先輩が語る市民活動の経験」「ワークショップ」など計5回の予定です。
- 3、シニアの「社会活動マッチング事業」の準備をしています。
長年培ってきた経験、知識、技能、技術をもつ高齢者とサポートを望んでいる方をつなぐことにより高齢者の社会参加をすすめる計画です。6月実施をめどとしております。
- 4、来年度の活動計画を運営委員会、役員会、スタッフなどで検討中です。
- 5、市民活動ハンドブックの配布をしました。
たくさんの意見や激励を頂きました。ありがとうございました。今後出来るところから着実に実施してゆきたいと考えています。

会員募集中

住みよい市民社会づくりを進めるために、多くの市民・団体の参加を期待しています。
詳しくは事務局までご連絡ください。

理事会からのお知らせ

04年度通常総会を5月16日(日)13:30から開催する予定です。ぜひ時間を空けておいてください。

また、それに先立ち、4月17日(土)に第6回交流サロンの後、中期目標など今後の方向について自由討議をする予定です。会員の皆様の参加をお願いします。

今後の予定

3月20日：第5回交流サロン
3月26日：第9回理事会
4月17日：第6回交流サロン・自由討議
4月23日：第10回理事会
4月30日：第11回理事会
5月6日頃：04年度通常総会議案送付
5月14日：サポートセンター管理運営委員会総会
5月16日：04年度通常総会

編集後記

“協働”。今号のキーワードです。流行り言葉です。だからこそ要注意！安上がりな行政の下請けをこの言葉で飾っていないか。協働の本質を学ぶきっかけにしたい。